

岐阜大学大学院・鳥取大学大学院 共同獣医学専攻設置により期待される主な改善点	
期待される効果	共同獣医学研究科設置による改善
<p>社会的必要性</p>	<p>現状の課題</p> <p>口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザなど畜産業に甚大な被害を与える家畜伝染病の発生が相次ぎ、家畜伝染病制御に必要な専門性の高い知識と技術、実践力を有する高度専門家の養成が求められている。</p> <p>海外での狂犬病やエボラ出血熱、ジカ熱などの流行を背景に、アジアの周辺各国やアフリカなどの途上国から、ヒトと動物、ヒトと吸血昆虫など動物の周辺環境をも含めた多様な感染症制御に関する高度な知識と技術を有し、国際的に指導的役割を果たせる人材への要求が高まっている。</p> <p>小動物獣医療では一層の高度化(がん、難治性疾患への対応)が進み、より特化した専門性を持つ指導的立場に立つ臨床獣医師の他、獣医療に加えライフサイエンス分野の研究への貢献が期待されて、創薬領域における基礎研究分野の専門家養成が求められている。</p>
<p>学部教育から大学院教育への接続性強化</p>	<p>学部教育で重視する内容が構成校間で必ずしも一致しないため、学部教育と大学院教育の方針に一貫性を持たせ難かった。</p> <p>構成大学により学部教育の理念が統一されておらず、学部から大学院教育への一貫したカリキュラム編成が難しかった。</p> <p>卒業研究テーマを大学院での研究テーマとする場合、配属大学の主要指導教員と他大学の副指導教員で、時に指導内容に不整合が生じる可能性があった。</p> <p>構成大学が多様で、各大学の特徴を研究科の特徴として鮮明化することが難しかった。</p>
<p>研究の発展</p>	<p>両大学の教員は両大学の卒業研究内容を把握しており、卒業研究を大学院での研究テーマとした場合にも、指導体制を含め研究の継続性が保証される。</p> <p>両大学が共通の理念で学部教育および大学院教育を行うことで、両大学の特徴をより鮮明にした大学院での教育・研究が実現する。</p> <p>両大学は地域貢献を重要な目的のひとつに掲げており、共同獣医学研究科の設置は、地域に根差した研究を一層推進する。</p>
<p>地域貢献</p>	<p>共通の理念を基盤とするカリキュラム構築により地域に根ざした教育研究を推進し、各県の家畜保健衛生所等との教育研究における協力・連携体制を強化する。</p> <p>新たなカリキュラムの構築や教授方法の改善、地方自治体との連携により、社会人の進学促進をはかる。</p>
<p>国内獣医学研究科の発展</p>	<p>東西の各連合獣医学研究科構成校による高度獣医学教育コース(案)を構築、「共同獣医学教育研究開発推進センター」がオナーガバナイザーとして機能し、他大学との教育連携を実現する。</p>

連合獣医学研究科の実績を活かし発展させる点および新研究科設置による効果

岐阜大学大学院連合獣医学研究科

- 平成14～18年度 21世紀COEプログラム
「野生動物の生態と病態から見た環境評価」
→野生動物医学研究の拠点形成
- 平成20～22年度 大学院教育改革支援プログラム
「グローバル化に向けた実践獣医学教育の推進」
→「感染症のリスク対策」、「食の安全性」、「動物生産と福祉」に関わる獣医学研究者の養成
- 平成21～24年度 若手研究者等海外派遣プログラム
「One World-One Healthを担う獣医学研究者育成プログラム」
→地球規模での健康危害対策に関わる獣医学研究者の養成

● 平成27年度5連携機関での実践実習



● 海外でのジョイントワークショップ

平成26年台湾大学（第4回） 平成28年国立ベトナム農業大学（第7回）



国際化対応 地方貢献 機能強化



獣医学 教育研究 開発推進 センター

山口大学大学院連合獣医学研究科

- 海外の研究機関との学術交流協定を締結
・インドネシア・カジャマダ大学獣医学部（平成20年2月）
・ネパール農林大学（平成27年3月）
・西オーストラリア大学農学研究所（平成27年10月）
→ グローバル化展開
- 山口大学国際化推進事業
「Seminar "Opportunities for Study in Japan" をベトナム・ハノイ農業大学にて開催（平成22年3月）
→ ラオス・カンボジアにおける獣医学教員養成
- 動物感染症国際研究拠点（平成24年4月）→ One Health人材の育成
- 平成24年度留学生交流支援制度（ショートステイ・ショートビジット）プログラム「国際獣医学実習プログラム（山口大学台湾国立中興大学）」
→ One Health 人材の育成
- 海外でのセミナー、シンポジウム開催
平成22年：インドネシア一獣医学研究における連携強化シンポジウム



岐阜大学大学院・鳥取大学大学院 共同獣医学研究科 共同獣医学専攻

活かし発展 させる点

- 旧連合獣医学研究科構成校および連携機関からの参画
・学生への助言および指導・学位審査会への参画・特別講義の配信
- 連携機関における実践演習の実施
- これまでの共同研究のさらなる推進

新研究科設置 による効果

- 学部教育から大学院教育への連携性強化：一貫した教育理念と教育・研究指導への反映
- 地域貢献：地域に根差した研究の推進および大学機能強化促進、リーダー養成
- 研究の発展：東西連合大学院で培ってきた教育・研究システムの有機的融合
- 国内獣医学研究科の発展：「共同獣医学教育開発推進センター」の機能強化による高度獣医学教育コンソーシアムの展開

高度な専門的研 究能力を備えた獣 医学スペシャリス トの養成

新研究科により養成する人材とその必要性

社会的背景

獣医学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議(平成26年6月)
 日本学術会議提言「わが国の獣医学教育の現状と国際通用性」(平成29年3月)

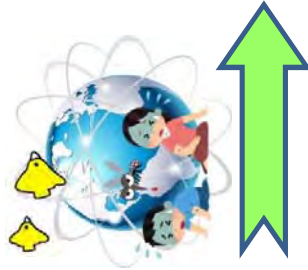
- 地方における感染事例や食の安全にかかわる問題に獣医学専門家が対応すべき



有事に対応できるリスクアナリシス能力、リスクマネジメント能力、リスクコミュニケーション能力を備えた人材が求められている。

↑ 家畜衛生・公衆衛生分野に関わるスペシャリスト の養成が必要

- ボーダーレス化する国際社会の中において、越境性感染症(口蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ)、新興・再興感染症(エボラ出血熱、ジカ熱、デング熱、SARS、MERS等)の発生に獣医学専門家が対応すべき



感染性疾患の診断技術、疾病発生時の動物・人の移動制限、国内及び国際防疫、リスクマネジメント等に関する専門的知識およびリーダーシップとコミュニケーション能力を備えた人材が求められている。

↑ One Healthの視点でリスク対応できるスペシャリスト の養成が必要

- 臨床獣医療の高度化を推進しライフサイエンス研究へ貢献すべき

獣医療の高度化を推進し、高度診療拠点機能を通じて難治性疾患治療に関わることで、リーダーとして地域社会へ貢献できる人材および分子・細胞レベルから生体まるごとを扱う中で身につけた生命現象を総合的に把握する力をベースに、分野を超えて問題を探求、解決できる人材が求められている。



↑ がん等難病治療に対応できるスペシャリストと異分野を橋渡しするトランスレーショナルリサーチャーの養成が必要

家畜衛生・公衆衛生
 スペシャリスト

- 地域のリーダー(県・市町村)
- 就職先:
 ● 国、地方自治体の職員
 ● 国、地方自治体の研究機関
 ● 畜産関連産業
 ● 応用獣医学教育者・研究者

One Health
 スペシャリスト

- 国際貢献・人材(OIE、WHO、政府機関等)
- 就職先:
 ● 国際機関、国際協力機構
 ● 国、地方自治体の研究機関
 ● 国、地方自治体の医療機関
 ● 応用獣医学教育者・研究者

難病治療・創薬
 スペシャリスト

- トランスレーショナルリサーチャー(創薬等)
- 高度獣医療研究者
- 就職先:
 ● 製薬・バイオ関連企業
 ● 高度医療専門臨床獣医師
 ● 基礎獣医学教育者・研究者
 ● 臨床獣医学教育者・研究者

教育理念と3つのポリシー

【教育理念】

生態系の健全性を含む動物や人の健康に関する幅広い分野の先端的研究を推進し、獣医学の高度化に貢献できる獣医学教育者および研究者を養成するとともに、高度な知識と技術、専門性と倫理観を有し、国際社会または地域社会における指導的役割を果たす獣医学専門家を育成する。

【アドミッションポリシー】

- ①正しい研究倫理及び獣医倫理を有し、行動規範を遵守できる人
- ②獣医学及び動物科学に関する十分な基礎学力と技術を有している人
- ③研究活動に必要な英語力とコミュニケーション能力を有している人
- ④研究課題に積極的に取り組む意欲と探求心を有している人
- ⑤幅広い視野に立ち創造性豊かな研究を行う実行力と向上心を有している人

【カリキュラムポリシー】

- ①共同獣医学研究科は教育課程において、研究科共通科目、基盤的教育科目、スペシャリスト養成科目、研究推進科目、アドバンスト教育科目を提供する。
- ②本教育課程の履修により、獣医学に関する高度な専門知識と技術を習得し、幅広い学際的な素養とグローバルな視点を基盤に、独創的な研究力とコミュニケーション力を発揮して社会的要請に応えうる地域のリーダー、獣医学研究者および高度専門職業人を養成する。

【ディプロマポリシー】

- ①獣医学及び動物科学に関する高度な専門知識と研究能力を備えた人材
- ②幅広い学際的な素養とグローバルな視点を基盤に、独創的な研究力とコミュニケーション力を発揮して、社会的要請に応えうる地域のリーダーとなりうる人材
- ③家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト、One Healthスペシャリストまたは難病治療・創薬スペシャリストとして獣医学及び動物科学における諸問題に対応または解決できる人材

新研究科における教育課程方針および特徴

教育課程の特徴

- 基礎的教育科目およびスペシャリスト養成科目の開講
- 双方の大学から副指導教員として研究指導に参画
- これまでの連合大学院教育で培った連携機関との教育研究連携
- 遠隔講義システム、eラーニングシステムを利用した遠隔教育
- 社会人学生のための長期履修制度、短期集中型スクーリング
- 留学生学生のためのメンター制度
- 獣医学教育研究開発推進センターによる高度獣医学教育コンソーシアム体制(案)の構築

入学生

共同獣医学科卒業生

学部教育の理念:
動物の健康の増進, 公衆衛生の向上, 人間社会や環境における健全性の維持に貢献できる, あらゆる命の専門家の育成

- 他大学卒業生
- 社会人
- 留学生

入学定員

岐阜大学: 6名
鳥取大学: 5名

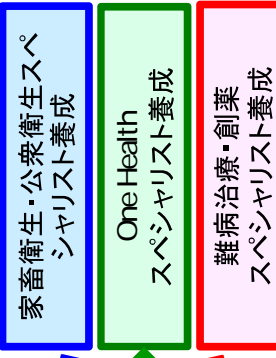
1・2年次

研究科共通科目 基礎的教育科目

- 研究遂行およびスペシャリスト養成の基礎となる知識、プレゼンテーション能力等の修得
- グローバル活動に向け、国際舞台で通用する英語力習得のためのアカデミックイングリッシュ
- 研究活動に関わる倫理的教育科目

2・3年次

スペシャリスト養成科目



研究推進科目

- 研究推進特別実験
- プロGRESSセミナー(2・3・4年次)

2・3・4年次

アドバンスト教育科目

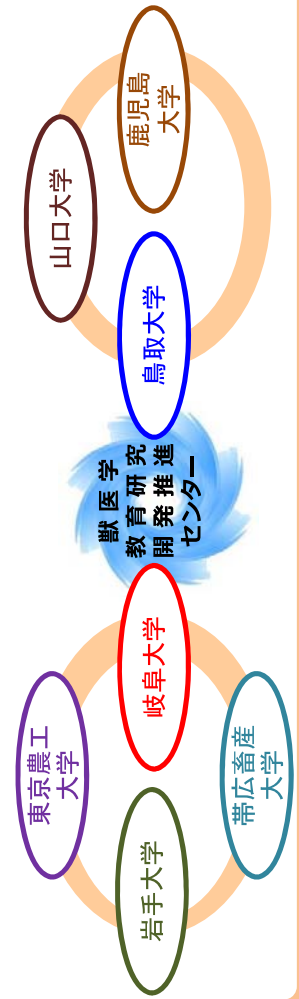
- 海外の獣医系大学院の教員および学生とのジョイントワークショップ
- 国内や海外の研究機関および連携機関における研究活動並びに学会発表
- 連携機関における実践演習

修了要件

- 30単位以上
- 他大学および連携機関からの審査参画
- 遠隔講義システムを利用した公開論文発表会の実施

学位論文審査

「高度獣医学教育コンソーシアム(案)」による連携教育体制



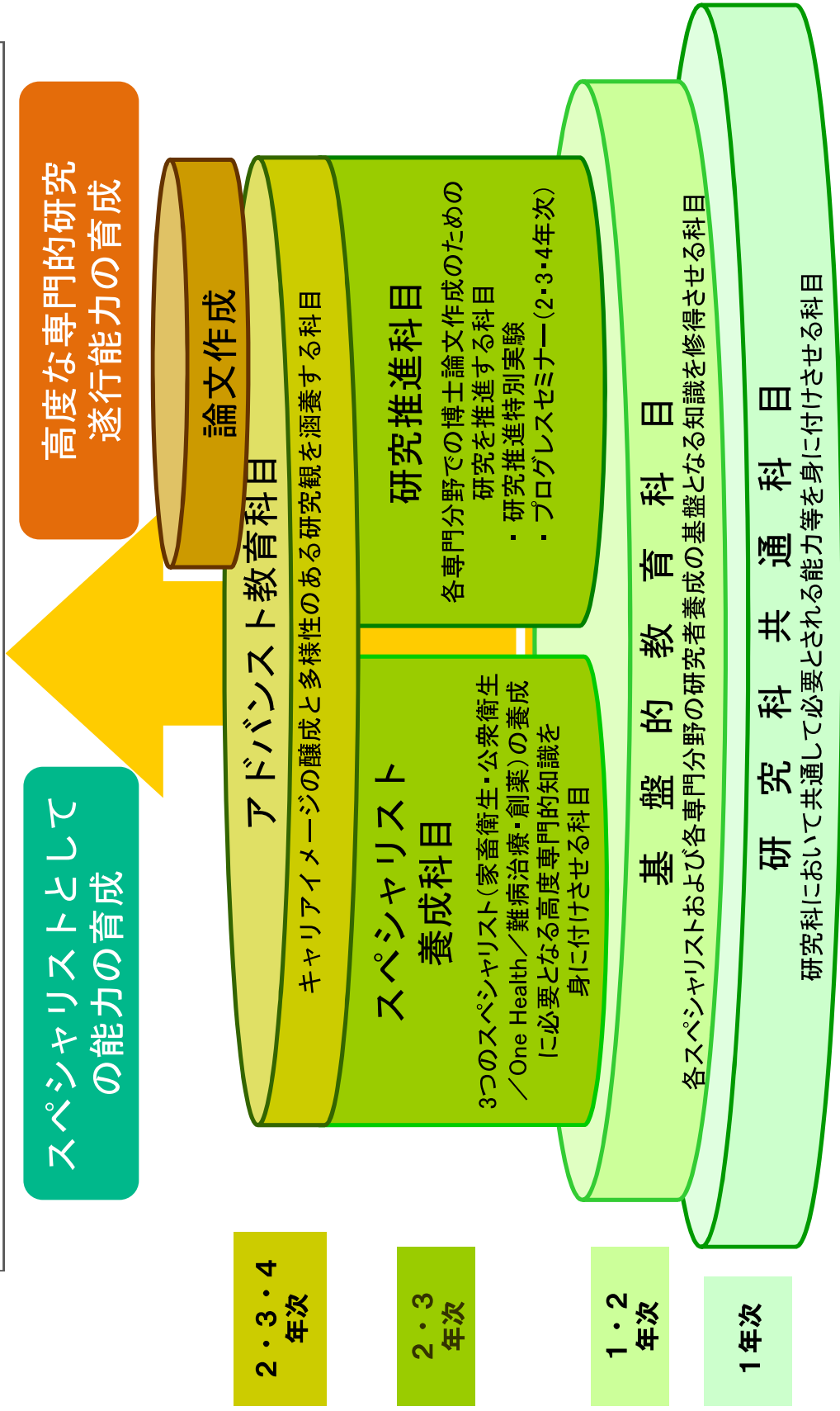
博士(獣医学)

大学院教育の理念:

大学院の健全性を含み動物や人の健康に関する幅広い分野の先端的研究を推進し、獣医学の高度化に貢献できる獣医学教育者および研究者を養成するとともに、高度な知識と技術、専門性と倫理観を有し、国際社会または地域社会における指導的役割を果たす獣医学専門家を育成する。

養成する人材像と教育課程の科目構成の概要

- 生態系の健全性を含む動物や人の健康に関する幅広い分野の先端的研究を推進し、獣医学の高度化に貢献できる獣医学教育者及び研究者
- 高度な知識と技術、専門性と倫理観を有し、国際社会または地域社会における指導的役割を果たす獣医学専門家



これまでの研究実績と「家畜衛生・公衆衛生スペシャリスト」を養成するカリキュラム

1・2年次

研究科共通科目

- ・ 生物情報解析学特論
 - ・ 研究倫理・知的財産特論
 - ・ アカデミック・イングリッシュ
- 基盤的教育科目**
- ・ 基盤特別講義・演習・実験

現場で起こる様々な問題を解決できる実践力の養成を目指す

2・3年次

家畜衛生・公衆衛生
スペシャリスト養成科目

- ・ 家畜衛生・公衆衛生特別講義 (コア科目)
- ・ 産業動物疾病診断学特別講義
- ・ 高病原性鳥インフルエンザ特別講義
- ・ 公衆衛生学特別講義

2・3・4年次

アドバンスト教育科目

- ・ 国内特別実践演習
- ・ 海外特別実践演習
- ・ ジョイントワークショップ演習

連携

農研機構動物衛生研究部門
岐阜県中央家畜保健衛生所
鳥取県家畜保健衛生所
など

家畜衛生・公衆衛生
スペシャリスト

- 地域(県市町村)の家畜保健衛生、公衆衛生に関連する機関で活躍するリーダー

就職先:

- 国、地方自治体の職員
- 国、地方自治体の研究機関
- 畜産関連産業
- 応用獣医学教育者・研究者

産業動物疾病診断学
特別講義



岐阜県との共同研究の推進

- ◆ 岐阜県ブランド牛「飛騨牛」の生産者支援
- ◆ 飛騨牛遺伝形質の維持に関する研究
- ◆ 中央家畜保健衛生所と連携により感染症に対する防疫訓練

鳥取県との共同研究の推進

- ◆ 県の産業振興事業及び人材育成に関する包括連携協定締結
- ◆ 診断困難な家畜疾病に関する病理組織診断への協力
- ◆ 牛の受胎率向上について共同研究
- ◆ 県で保護した野生鳥獣の救護体制を構築

高病原性鳥インフルエンザ
特別講義



岐阜県の寄附研究部門設置

- ◆ 野生動物管理センター内「畜附研究部門」(鳥獣管理の教育と普及)を開設
- ◆ 大学、市町村および地域住民とが連携して効果的な野生動物保護管理ができるシステム構築の研究

鳥取県の公衆衛生行政との連携

- ◆ 公衆衛生の専門家として各種審議会に参画
 - ・ 鳥取県公衆衛生協会
 - ・ 鳥取県新型インフルエンザ対策本部会議
 - ・ 鳥取県食の安全推進会議
 - ・ 鳥取県環境審議会
 - ・ 鳥取県感染症対策協議会
- ◆ 野生動物の解体処理施設における衛生状況に関する研究

公衆衛生学
特別講義



岐阜県中央家畜保健衛生所・
学内移転(平成29年4月)

- ◆ キャンパス内に移転する同所内に、応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センターを移設
- ◆ 家畜衛生、産業動物分野での教育研究をさらに強化

鳥取県との連携による家畜
伝染病制御

- ◆ 家畜保健衛生所と大学間で家畜伝染病の診断の協力を構築
- ◆ 感染症制御のアドバイザーとして県の防災会議等に参加・協力

連携する施設・機関

学内附属施設

- ・ 野生動物管理学研究センター
- ・ 家畜衛生地域連携教育研究センター (岐阜大)
- ・ 鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター
- ・ ファイールドサイエンスセンター(鳥取大)

→ 学生の求めに応じて研究遂行上の助言を与えることが可能

学外連携機関

- ・ 農研機構・動物衛生研究部門
- ・ 国立感染症研究所
- ・ 国立医薬品食品衛生研究所
- ・ 岐阜県、鳥取県の獣医系機関

→ 学生の求めに応じて研究遂行上の助言を与えることが可能

→ 国内特別実践演習での学生の教育研究活動の場にもなる

地域との家畜・公衆衛生事業連携：地方自治体との連携および共同研究の実績

これまでの研究実績と「One Healthスペシャリスト」を養成するカリキュラム

1・2年次

研究科共通科目

- ・生物情報解析特論
- ・研究倫理・知的財産特論
- ・アカデミック・イングリッシュ

基盤的教育科目

- ・基盤特別講義・演習・実験

グローバルな視点で複雑な問題を扱うことができる対応力の養成を目指す

2・3年次

One Health スペシャリスト養成科目

- ・One Health 特別講義(コア科目)
- ・野生動物の個体数管理特別講義
- ・インフルエンザ人感染制御学(リスクアナリシス)特別講義
- ・新興・再興細菌感染症学特別講義

アドバンスト教育科目

- ・国内特別実践演習
- ・海外特別実践演習
- ・ジョイントワークショップ演習

連携

農研機構動物衛生研究部門
国立感染症研究所 など

2・3・4年次

One Health スペシャリスト

- WHO、OIE、政府研究機関等の国際機関で活躍するリーダー

就職先:

- 国際機関(WHO, OIE)
- 国際協力機構(JICA)
- 国、地方自治体の研究機関
- 国、地方自治体の医療機関
- 応用獣医学教育者・研究者

野生動物の個体数管理特別講義



インフルエンザ人感染制御学(リスクアナリシス)特別講義



新興・再興細菌感染症学特別講義



岐阜大学: 狂犬病ウイルス研究のグローバル展開

- ◆ タイ、インドネシアで流行している狂犬病ウイルスの分子疫学的調査
- ◆ 台湾の野生動物間で流行している狂犬病について同政府研究機関と共同研究
- ◆ 韓国で流行した本症に對して韓国政府研究所と共同でワクチン開発



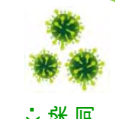
岐阜大学: トキソプラズマ研究のグローバル展開

- ◆ トキソプラズマ等、人獣共通寄生虫感染症の伝播様式について、シンガポール・ラジシャヒ大学と共同研究



岐阜大学: クラミジア研究のグローバル展開

- ◆ ガーナ大学、インドCSK、HP大学とクラミジア感染症病原体に関する共同研究



鳥取大学: サルモネラ感染症研究でのグローバル展開

- ◆ ベトナム国立衛生疫学研究所及び長崎大学と、サルモネラの薬剤耐性に関する共同研究(鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター)



鳥取大学: 鳥インフルエンザウイルス研究でのグローバル展開

- ◆ 2005年よりベトナム社会主義共和国の国立衛生疫学研究所とともに、高病原性鳥インフルエンザウイルスの国際共同疫学調査研究
- ◆ ベトナムの家畜におけるワクチン導入後の高病原性鳥インフルエンザウイルスの抗原変異と流行動態を解明
- ◆ 文部科学省「感染症研究国際展開戦略プログラム」に参画
- ◆ 感染症制御研究・開発プロジェクトに参画(鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター)



連携する施設・機関

学内附属施設

- ・野生動物管理疫学センター(岐阜大)
- ・鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター(鳥取大)

→ 学生の求めに応じて研究遂行上の助言を与えることが可能

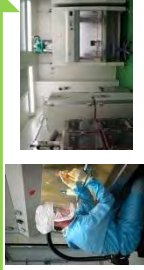
学外連携機関

- ・農研機構・動物衛生研究部門
- ・国立感染症研究所
- ・国立医薬品食品衛生研究所

→ 学生の求めに応じて研究遂行上の助言を与えることが可能

→ 国内特別実践演習での学生の教育研究活動の場にもなる

BSI3施設を活用した研究連携
 京都産業大学
 鳥インフルエンザ
 研究センター



国際的連携による感染症対策: 人獣共通感染症および新興・再興感染症研究の実績

これまでの研究実績と「難病治療・創薬スペシャリスト」を養成するカリキュラム

1・2年次

研究科共通科目

- ・生物情報解析学特論
- ・研究倫理・知的財産特論
- ・アカデミック・イングリッシュ

基盤的教育科目

- ・基盤特別講義・演習・実験

異分野間の問題に対応できる学際的展開力の養成を目指す

2・3年次

難病治療・創薬スペシャリスト養成科目

- ・難病治療・創薬特別講義(コア科目)
- ・難治性疾患病態生理特別講義
- ・創薬概論特別講義
- ・トランスレーショナルリサーチ特別講義
- ・腫瘍治療学特別講義

アドバンスト教育科目

- ・国内特別実践演習
- ・海外特別実践演習
- ・シヨイントワークショップ演習

連携

国立医薬品食品衛生研究所
実験動物中央研究所 など

難病治療・創薬
スペシャリスト

- 創薬分野で活躍するトランスレーショナルリサーチャー
- がん等難治性疾患の克服を目指す高度獣医療研究者

就職先:

- 製薬・バイオ関連企業
- 高度医療専門臨床獣医師
- 基礎獣医学教育者・研究者
- 臨床獣医学教育者・研究者

国立医薬品食品衛生研究所
(教育連携)

岐阜大学連合創薬医療情報研究科
(教育連携)

・難治性疾患病態生理特別講義

・創薬概論特別講義

・トランスレーショナルリサーチ特別講義

・腫瘍治療学特別講義



岐阜大学 農学部附属
動物医療センター
Toshu University Veterinary Medical Center
Animal Welfare Center, Gifu University

連携する施設・機関

学内附属施設

- ・生命の鎖統合研究センター
- ・連合創薬医療情報研究科
- ・動物病院 (岐阜大)
- ・菌類さご遺伝資源研究センター
- ・動物医療センター
- ・ワイールドサイエンスセンター(鳥取大)

→ 学生の求めに応じて研究遂行上の助言を与えることが可能

学外連携機関

- ・国立医薬品食品衛生研究所
- ・JRA競走馬総合研究所
- ・(公法)実験動物中央研究所

→ 学生の求めに応じて研究遂行上の助言を与えることが可能

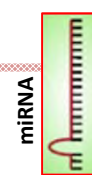
→ 国内特別実践演習での学生の教育研究活動の場にもなる

● 岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科との連携による創薬研究(生命の鎖統合研究センター)

RNA創薬により細胞のがん化を抑制する新規miRNAを創出(連合創薬医療情報研究科)



実用化に向けた核酸構造設計および膜輸送システムの改善(生命の鎖統合研究センター)



自然発症例に対するmiRNAの効果を評価し分子設計にフィードバック(附属動物病院)

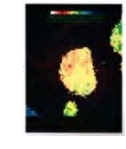


● 鳥取大学農学部附属菌類さご遺伝資源研究センターとの連携による創薬シーズ・新規機能物質の探索

キノコ由来新規活性物質成分の探索(菌類さご遺伝資源研究センター)



新規物質の薬理作用のin vitro評価およびカニズムの解明(菌類さご遺伝資源研究センター)



新規創薬シーズおよび機能性物質とのin vivo評価と新規治療法の開発(動物医療センター)



他分野との連携:トランスレーショナルリサーチの実績

臨床における問題点を基礎研究へ回帰させる「リバーstransレーショナルリサーチ」へさらに発展

共同獣医学研究科の講座体制の概要

岐阜大学大学院・鳥取大学大学院 共同獣医学研究科共同獣医学専攻

基礎獣医学講座

獣医学及び動物科学に関する高度基礎獣医学的研究

病態・応用獣医学講座

疾病の基礎的研究ならびに制御・制圧に関する高度応用獣医学的研究

臨床獣医学講座

伴侶動物・産業動物における高度動物臨床医科学的研究

共同獣医学科と共同獣医学研究科の講座体制の比較

共同獣医学科（岐阜大学）

講座	教育研究分野
基礎獣医学	獣医解剖学 獣医生理学 獣医薬理学
病態獣医学	獣医微生物学 獣医病理学
応用獣医学	人獣共通感染症学 食品環境衛生学 野生動物医学
臨床獣医学	獣医内科学 獣医寄生虫病学 獣医臨床放射線学 獣医外科学 獣医分子病態学 産業動物臨床学 獣医臨床繁殖学 獣医麻酔学 放射線治療システム管理学

共同獣医学科（鳥取大学）

講座	教育研究分野
基礎獣医学	獣医解剖学 獣医生理学 獣医薬理学 獣医生化学
病態獣医学	獣医微生物学 獣医病理学 獣医寄生虫病学
応用獣医学	獣医公衆衛生学 実験動物学 獣医感染症学 獣医衛生学
臨床獣医学	獣医内科学 獣医外科学 獣医神経病・腫瘍学 獣医繁殖学 獣医臨床検査学 獣医画像診断学

開設時（平成31年4月）の教員の配置（予定）

講座	教員数（人）		合計
	岐阜	鳥取	
基礎獣医科学	5	6	11
病態・応用獣医科学	9	12	21
臨床獣医科学	12	10	22
合計	26	28	54

共同獣医学研究科 教育課程の概要

研究科共通科目

- ・ 生物情報解析学特論
 - ・ 研究倫理・知的財産特論
 - ・ アカデミック・イングリッシュ
 - ・ 学際領域特別演習
- ： 研究データの解析、統計学等に関する知識の修得
 ： 基本的な研究倫理及び知的財産に関する知識の修得
 ： 研究者に必要な英語能力の修得
 ： 研究計画に関する発表、学術交流等を実施

基盤的教育科目

- ・ 基盤特別講義
 - ・ 基盤特別演習
 - ・ 基盤特別実験
- ： 各専門分野における研究遂行および各スペシャリスト養成の基盤となる知識の修得
 ： 各専門分野における研究遂行および各スペシャリスト養成の基盤となるプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力等の修得
 ： 各専門分野における研究遂行の基盤となる実験手技の修得

スペシャリスト養成科目

- ・ スペシャリスト養成コア科目 (特別講義)
 - 家畜衛生・公衆衛生特別講義：家畜衛生・公衆衛生分野の専門的知識の修得
 - One Health 特別講義：One Health 分野の専門的知識の修得
 - 難病治療・創薬特別講義：難病治療・創薬分野の専門的知識の修得
- ・ スペシャリスト養成コア科目 (特別演習)
 - 家畜衛生・公衆衛生特別演習：家畜衛生・公衆衛生分野の実践的知識の修得
 - One Health 特別演習：One Health 分野の実践的知識の修得
 - 難病治療・創薬特別演習：難病治療・創薬分野の実践的知識の修得
 - スペシャリスト特別講義：自大学教員および相手大学教員の開講による、各スペシャリスト養成に必要となる高度の専門知識の修得
- ・ スペシャリスト特別演習
 - ： 相手大学教員の開講による、各スペシャリスト養成に必要なとなる高度の専門知識の理解醸成

研究推進科目

- ・ 研究推進特別実験
 - ・ プログレスセミナー I・II
- ： 主指導教員の開講による研究に有用な幅広い高度の実験手技の修得
 ： 主指導教員、自大学副指導教員および相手大学副指導の教員による高度な専門的知識の修得

アドバンスト教育科目

- ・ 国内特別実践演習 I・II
 - ・ 海外特別実践演習 I・II
 - ・ ジョイントワークショップ演習
- ： 国内の研究機関(国、地方公共団体、民間)における研究活動、調査活動等の実施、学会発表
 ： 海外の研究機関(公的機関および民間)における研究活動、調査活動等の実施、学会発表
 ： 国際ジョイントワークショップにおける口頭あるいはポスター発表、学術交流等の実施

共同獣医学研究科 修了要件単位

(修了要件単位数は30単位以上とし、うち10単位以上は相手大学の単位とする)

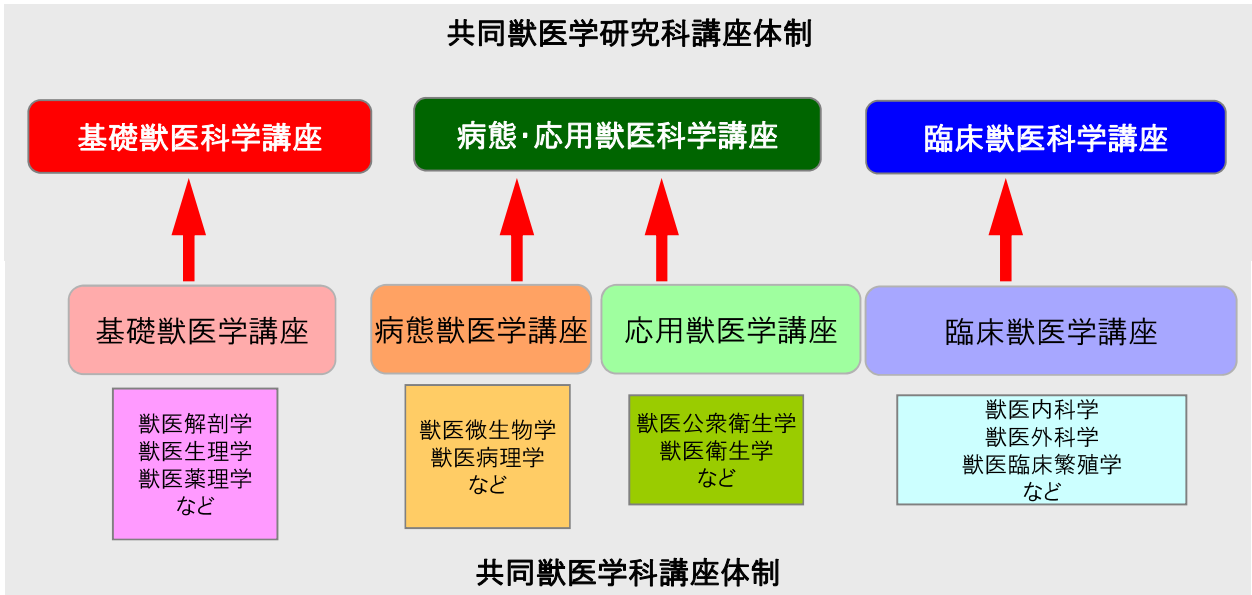
区分	必要単位数	
	自大学	相手大学
研究科共通科目		
生物情報解析学特論	1*	
研究倫理・知的財産特論		2**
アカデミック・イングリッシュ	1*	
学際領域特別演習		1
基礎的教育科目		
基盤特別講義(主指導教員、その他教員開講)	1×2	
基盤特別講義		1×2
基盤特別演習(主指導教員開講)	1	
基盤特別実験(主指導教員開講)	2	
スペシャリスト養成科目		
スペシャリスト養成コア科目特別講義Ⅰ	1	
スペシャリスト養成コア科目特別講義Ⅱ		1
スペシャリスト養成コア科目特別演習	1	
スペシャリスト特別講義	1×2	
スペシャリスト特別講義		1×2
スペシャリスト特別演習		1
研究推進科目		
研究推進特別実験(主指導教員開講)	2	
プログレスセミナーⅠ(主指導・自大学副指導教員開講)	2	
プログレスセミナーⅡ(相手大学副指導教員開講)		2
アドバンスト教育科目		
国内特別実践演習Ⅰ	} 2×2	
国内特別実践演習Ⅱ		
海外特別実践演習Ⅰ		
海外特別実践演習Ⅱ		
ジョイントワークショップ演習		

※ 生物情報解析学特論(1単位)とアカデミック・イングリッシュ(1単位)を岐阜大学が開講し、研究倫理・知的財産特論(2単位)を鳥取大学が開講する。このため岐阜、鳥取いずれの学生も自大学から2単位、相手大学から2単位を修得する。
 本表は、岐阜大学に本籍をおく学生の例で、生物情報解析学特論、アカデミック・イングリッシュの2科目は自大学で受講し、研究倫理・知的財産特論はメディア等で相手大学(鳥取大学)科目として受講する。

共同獣医学科と共同獣医学研究科における教育の接続性

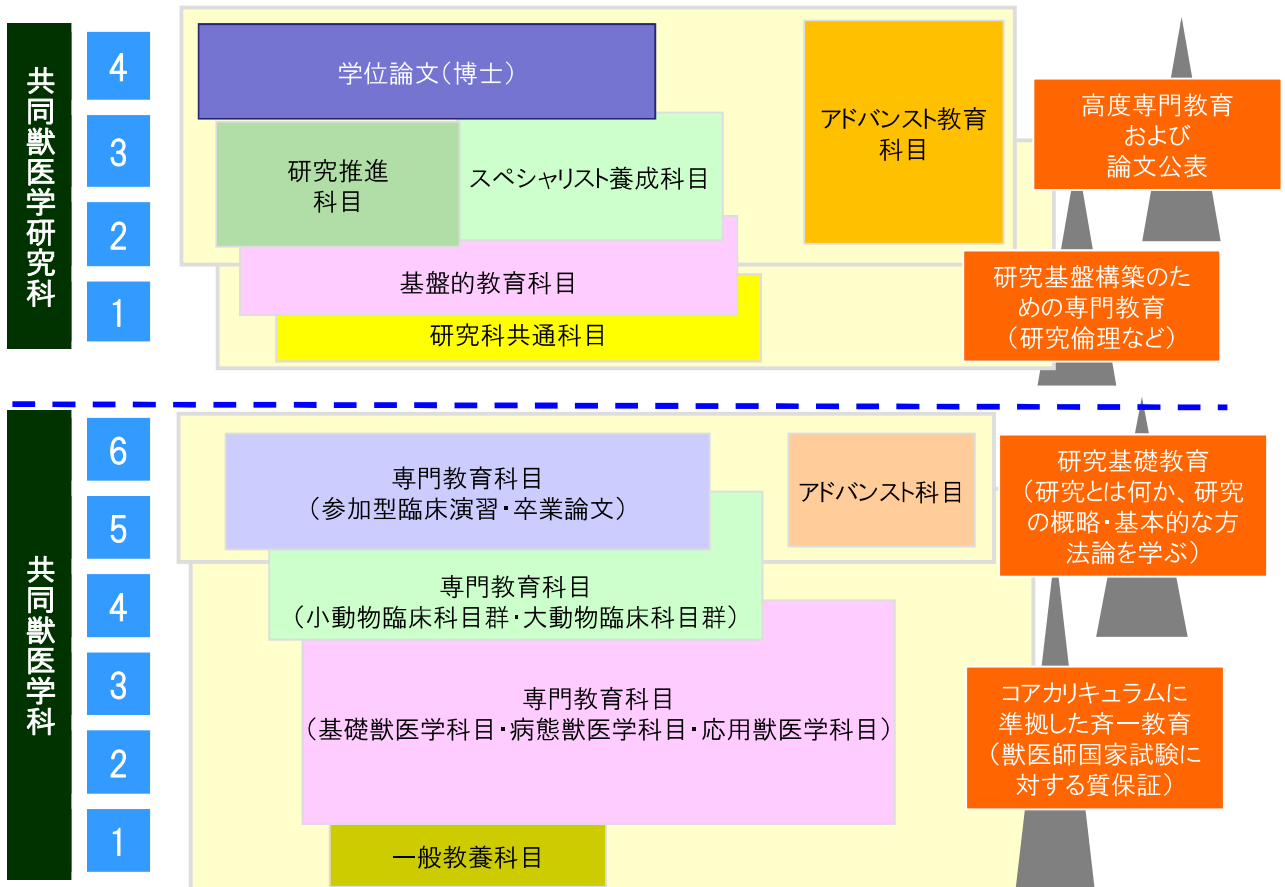
講座体制の接続性

共同獣医学研究科の講座体制は、獣医衛生学及び獣医臨床学の教育を充実させた体制とするため、共同獣医学科の4講座体制を基盤として3講座体制に再編成する。



カリキュラムの接続性

共同獣医学科の専門教育科目(卒業論文)による研究基礎教育を基盤とし、共同獣医学科の教育を充実・発展させた形の教育プログラムを用意する。



博士論文作成指導の概要

指導体制

主指導教員： 博士論文作成指導を主に行う教員。

第一副指導教員： 主指導教員とともに、博士論文指導を行う自大学の教員。

第二副指導教員： 主指導教員とともに、博士論文指導を行う相手大学の教員。

副指導教員の所属講座は主指導教員と同じ講座でなくとも可し、学生は広い専門分野の中から指導教員を選ぶことができる。

指導教員が担当する主な科目

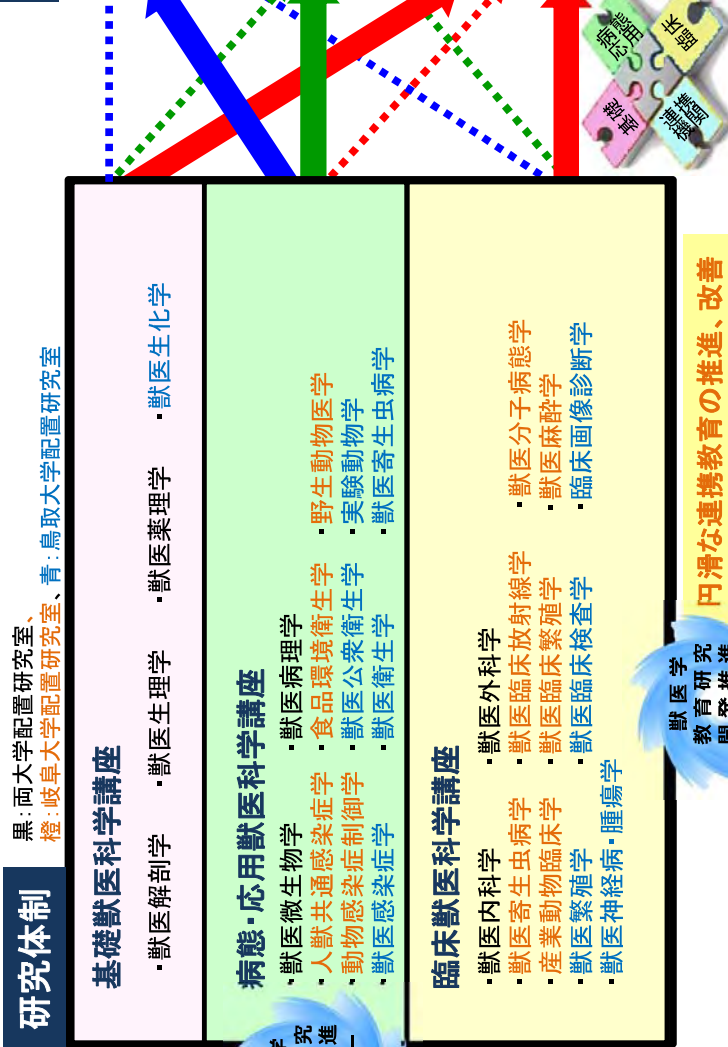
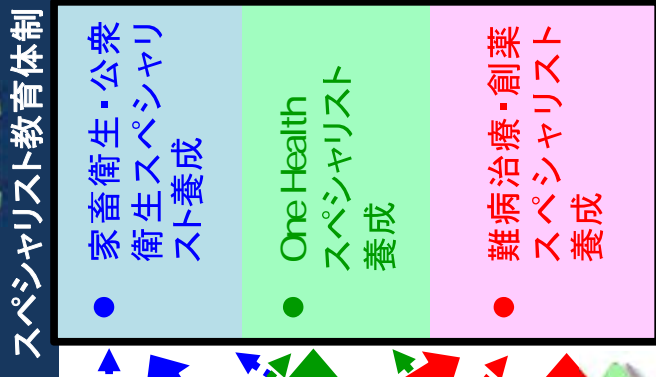
1	2	3	4	(年次)
基盤特別講義(3単位(1単位×3))				学位論文(博士)
基盤特別講義(1単位)			アドバンス教育科目(4単位)	
基盤特別演習(1単位)				
基盤特別実験(2単位)				
学際領域特別演習(1単位)	スペシャリスト特別講義(4単位(1単位×4))			
生物情報解析学特論(1単位)	スペシャリスト特別演習(1単位)			
研究倫理・知的財産特論(2単位)	研究推進特別実験(2単位)			
アカデミックイングリッシュ(1単位)	スペシャリスト養成コア科目特別講義※(2単位(1単位×2))			
	スペシャリスト養成コア科目特別演習※(1単位)			
		プログレスセミナー I (2単位)		
		プログレスセミナー II (2単位)		

全教員	基盤特別講義 1・2年次、3単位(1単位×3)	各専門分野における研究遂行の基盤となる知識・技術に関する講義を行う。				
	学際領域特別演習 1年次、1単位	研究内容の確認、研究計画の発表に関する指導各専門分野における研究遂行の基盤となる知識・技術に関する講義を行う。				
	スペシャリスト特別講義 2・3年次、4単位(1単位×4)	各分野における高度な専門知識・技術に関する講義を行う。				
	スペシャリスト特別演習 1年次、1単位	相手大学教員の開講による専門的研究手技の指導を行う。				
	スペシャリスト養成コア科目特別講義※ 2・3年次、2単位(1単位×2)	各プログラムの専門的知識に関する講義を行う。				
	スペシャリスト養成コア科目特別演習※ 2・3年次、1単位	各プログラムの実践的技術に関する指導を行う。				
主指導教員	基盤特別講義 1・2年次、1単位	研究遂行およびスペシャリスト養成の基盤となる知識・技術に関する講義を行う。	基盤特別演習 1・2年次、1単位	研究遂行の基盤およびスペシャリスト養成となるプレゼンテーション等の指導を行う。	基盤特別実験 1・2年次、2単位	研究遂行の基盤となる実験手技に関する指導を行う。
	研究推進特別実験 2・3年次、2単位	研究に有用な幅広い高度の実験手技に関する指導を行う。	プログレスセミナー I 2・3・4年次、2単位	高度な専門的研究遂行能力を高めるための指導を行う。		
第一副指導教員 (自大学)	プログレスセミナー I 2・3・4年次、2単位	高度な専門的研究遂行能力を高めるための指導を行う。				
第二副指導教員 (相手大学)	プログレスセミナー II 2・3・4年次、2単位	高度な専門的研究遂行能力を高めるための指導を行う。				

※ 3つのスペシャリスト養成プログラム(家畜衛生・公衆衛生、One Health、難病治療・創薬)において、スペシャリスト養成コア科目として開講される講義および演習

新研究科の教育研究体制とスペシャリスト養成教育

岐阜大学大学院・鳥取大学大学院 共同獣医学研究科 共同獣医学専攻



円滑な連携教育の推進、改善

連携機関



両大学院が大学画
 院教育課程に参画
 し、連携機関および
 旧連大構成校と有体
 機的な連携教育体制
 構築

旧連大大学院構成校



共同獣医学研究科附属 獣医学教育研究開発推進センターの機能と役割

大学院
 岐阜大学共同獣医学研究科・
 鳥取大学共同獣医学研究科
 獣医学教育研究開発推進センター
 ・共同教育研究マネージメント部門
 ・戦略的共同教育研究開発部門

ヨコの連携
 学外機関との
 教育・研究連携
 の推進

大学の連携
 連携の強化

例) 学部生による大学院講義の聴講
 大学院生の教育補助機会の増加・充実
 大学院生主催の学部生との共同ゼミの開催

期待できる効果

大学院生

- ・TA制度拡充による教育指導能力の向上
- ・学術行事の企画運営のトレーニング

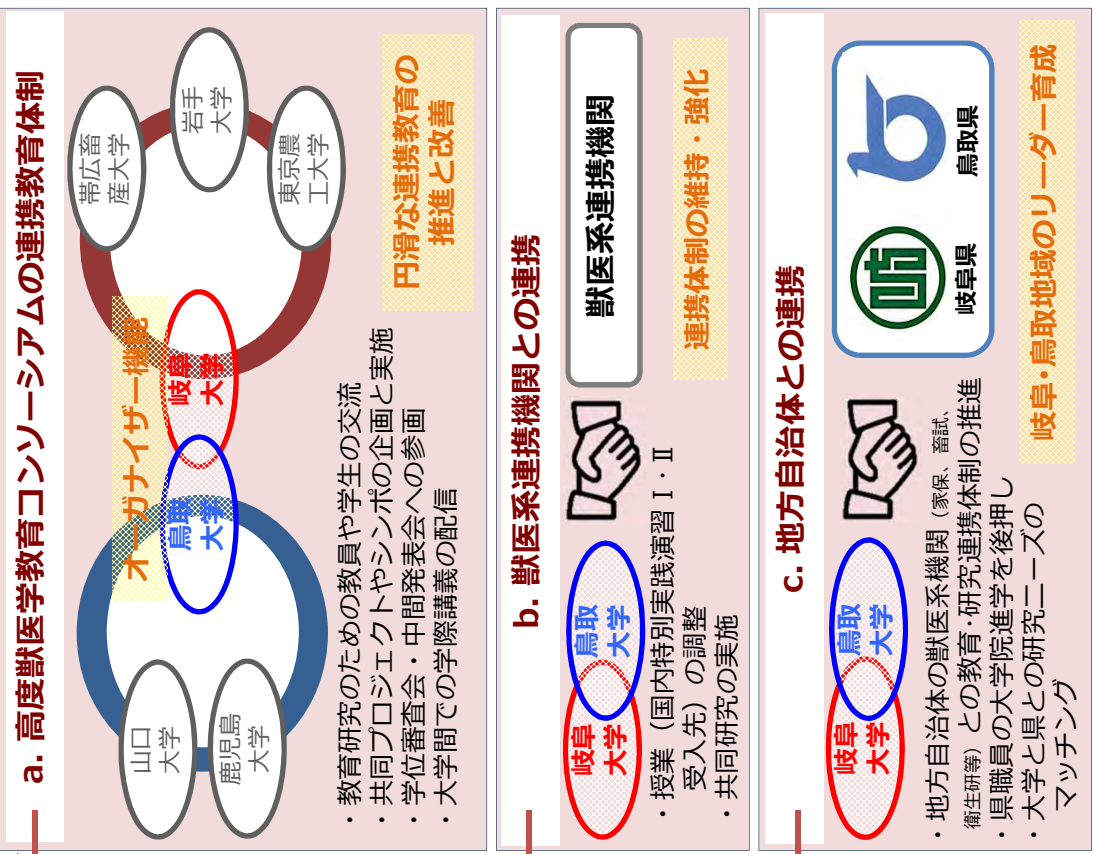
学部生

- ・大学院環境の早期の体験
- ・研究基盤技術体得の前倒し
- ・大学院進学意欲の向上

安定的な大学院進学希望者の確保
 獣医学教育者・研究者、高度専門職業人の継続的な輩出

学部
 岐阜大学応用生物科学部・
 鳥取大学農学部
 共同獣医学教育研究開発推進センター

- 本センターが担う5つのミッション**
- ① 共同教育全般の調整
 - ② 共同教育の開発と推進
 - ③ 学部一大学院連携教育法の展開
 - ④ 学外機関との大学院教育・研究連携の推進
 - ⑤ 教育・研究連携の検証と改善



岐阜大学大学院・鳥取大学大学院
共同獣医学研究科 共同獣医学専攻組織構想(案)

